

研修だより 42号



山名小での学び

小笠原康晃

1 3の3音楽

先生が明るい表情で授業を進めていました。

「トランペット吹きの日」という歌の鑑賞の授業でした。

授業の中で気になったのは、子どもたちへの先生の言動です。

山名小学校の研修ではベーシックスキルという教師側の働きかけの向上にも力を入れていました。

(1) 表情

表情はいつも笑顔でした。多くの参観者がいる中で、にこやかな笑顔を保ち続けていました。

多くの参観者がいることは、子どもたちにとって、不安の源です。

いつもと違う雰囲気なのに、先生がニコニコしながらいつもの授業を進めてくれている。

これだけでとても安心すると感じました。

(2) 見通しを持たせるような声掛け

授業の始まりに授業内容の説明をしていました。

「まず、校歌と〇〇を歌います。次にある曲を聞いてもらうからね。」

この先生は、普段から子どもたちに見通しを持たせる働きかけをしていると感じました。

また、授業をある程度パターン化することで、安定した授業に繋がっていると感じました。

本校でも取り組んでいる「笠小ループリック」も同じです。

ゴールの姿を教師と子どもの両方で共有することで、子どもたちは見通しを持った授業を受けることができます。

(3) 「指示→確認→褒める」の流れ

「この曲の鑑賞をします。どんなイメージだったか、後で話し合います。」

(鑑賞後)

(発問) 「どんな感じの曲でしたか。」

(指示) 「隣の人と話して。」

(時間経過後)

(確認) 「隣の人とたくさん話した人？」

(たくさんの子が手を上げる。)

(褒める) 「すごい。いっぱい話せたね。それでは、発表してもらおうね。」

昨年度、田村学先生が講演の中で話していた「指示→確認→褒める」の流れを意識した発言をしていました。

子どもがした行為を教師が確認し、褒める。

そうすることで、子どもたちは「望ましい行為」を、自然と覚えていきます。

または、あまり意識しないうちに教師に褒められ、成功体験を積み重ねることに繋がります。

この行為は、浅羽学園で取り組んでいる PBS にも繋がると感じました。

(4) しかけ

授業の仕掛けは「Y チャート (思考ツール)」でした。

ワークシートに自由に感想を書いた後、思考ツールに示された視点で分類していました。

最初に自由に意見を書かせることがポイントだと思いました。

自由に書いた意見を分類する作業が思考力を高めると感じました。

初めから視点を与えて分類するという作業になると、難しいと思います。

2 2の2生活科

(1) 自由に試行する機会を確保

ゴムや空気を使ったおもちゃで遊ぶ活動をしていました。

自分で作ったおもちゃを、より良いものにするために、工夫をする時間でした。

空気鉄砲のグループを参観しました。

始めに、子どもたちは夢中になって空気鉄砲で遊んでいました。

15分くらい遊んだ後に、ある子が「どうしたら（弾が）飛ぶようになるの?」と、友達に質問していました。

「(袋を) 思いっきり叩くんだよ。」と、友達は回答していました。

質問した子は、いつも以上に力を入れて、袋を叩くことを繰り返していました。

(2) 体験活動の後に話し合いをすることが「思考力の向上」に繋がる
十分な体験活動の後に、話をするからこそ、思考力が向上すると考えました。

自分で試行錯誤したおもちゃがうまくいかない。

何度やってみても、上達しない。

そうすると、何とかその問題を解決しようとしています。

友達に話を聞いたり、よくできている子のおもちゃの真似をしたり、自分で調べたりして、何とか問題を解決しようとしています。

その過程に思考力を使っていると考えました。

十分な活動や調査がないまま、思考力を向上させることは難しいと感じました。

3 5の2社会科

担任の先生の笑顔が大変素敵でした。

多くの参観者がいる中で、教師が明るく、優しい表情でいることにより、子どもたちも落ち着いて授業に参加できると感じました。

社会科ではICTを活用した自由進度学習に挑戦されていました。

大勢の参加者がいたので、席を離れて友達と話し合う子は少なかったのですが、子どもたちが自分たちで課題を解決していました。

4 田村学先生の講演

アウトプットすることが、知識の獲得に繋がるということを改めて学びました。

新しい知識・技能を獲得するときに、インプット主体の学びよりもアウトプット主体の学びの方が、獲得に繋がりやすいし、深い学びに繋がりやすいということでした。

アウトプットとは、自分の外への発信です。

友達と話をすると、音声言語として、学びを発信していることになります。

振り返りをすると、文字言語として、学びを発信していることになります。

授業の中で、振り返りを書かせることや話し合いをさせることは、それが発信する学びになると感じました。

発信することで、子どもたちの学びが深まっていきます。

教師の学びも同じだと考えました。

授業を参観した後で、参観した授業について話をする。

話をするのが発信であり、アウトプットする学びになります。

「授業を見合って話をする事」

「授業や生徒指導の悩みを相談すること」

外に発信することが、話をした先生自身の学びになると思います。

学年団を中心に話し合うことを続けていきましょう。